

# 活動報告書

報告者氏名： 畑田 怜奈

所属：横浜市立上菅田特別支援学校

記録日：2013年2月27日

## 【対象児（群）の情報】

・学年： 高等部3年

・障害名： 脳性まひ

・障害と困難の内容： 上肢の分離は比較的良好であるが、操作時や会話時に全身の伸展パターンが強い。学習面に関しては、ひらがなは読むことができるが、カタカナや漢字は難しく、インターネットで調べ学習をした場合は、教員が読み上げるサポートを行う。言語理解は良好で、日常会話は問題なくこなしている。

## 【活動目的】

・当初のねらい

卒業後の余暇の1つとして活用すること、情報収集の手立てとすることをねらいとした。

・実施期間

H24. 7～H25. 2の中で、適宜行った。

・実施者

畑田怜奈(教員)

・実施者と対象児の関係

担任

## 【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

以前から自立活動の授業(別の教員がつく)でiPadを使用し、絵本を読んだり、画面にタッチする簡単な操作を行っていた。指先が屈曲しているため、一人で画面にタッチすることが難しく、教員の介助を必要としていた。天気などの情報は、登校前に見るテレビから収集しており、それを友人たちに伝えることができた。情報収集したその後などを知る機会がなかなかないため、半端な情報で終わってしまうことが多かった。また、授業の中でノートPCを活用して情報収集をする場合は、runケーブルの長さの関係から、自分で調べることができず、教員がやってしまうことが多く、やりたい気持ちが不完全燃焼になってしまうことが多かった。

・活動の具体的内容

○自助具○ タッチペン(鉛筆ホルダーに伝導スポンジをつけたもの)、傾斜板。

○使用アプリ○

余暇として <小集団による学習>UTAMO(カラオケ) カメラ、Photo Booth

<個別>CookPad、白黒オバケ Lite(絵から特定のものを見つける)、リズムドラム(音楽ゲーム)

情報収集として Safari(インターネット)、YouTubeでの動画検索、カメラ(友人への報告に使用)

※それぞれ30分程度、継続しての利用はしていない。

・対象児（群）の事後の変化

発言する際に、自分で調べた詳細な情報や最新の情報を知ることによって、自信を持って伝えられるようになった。特に、1、2月の天候に関しては、「調べたら雪の確立が〇%だった」など詳細を発言でき、友人たちに興味をもたれることが特に嬉しかったようだ。また、植物の成長を伝えるために成長過程をカメラで撮影し、友人に「こんなに成長した」と今まで撮った写真を比較しながら伝えることができた。

### 【報告者の気づきとエビデンス】

#### ・主観的気づき

わからないことや気になることができると、自分から調べたいという意欲をアピールすることができるようになった。また、iPad を使って複数で楽しむという、彼女の中では新しい活用方法を知ることができたと感じる。

#### ・エビデンス（具体的数値など）

とることができなかった。

#### ・その他エピソード（画像などを含めて）



集中して取り組むことができていたが、伸展パターンが入ってしまい、長時間行うことは身体に負担になるように感じた。

faceTime の使用に Wi-Fi 環境が必要という予備知識がなかったために、予定していた計画に取り組めなかった。計画していたことは、「母子分離」についてである。ヘルパー制度を利用する中で、引き継ぎの際の使用や、外出した時の記録などを動画やカメラ機能で記録して帰宅した時に伝えなど、本人の言葉では足りない部分を補うことができるのではないだろうか。